

2004 . 1

# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

「はい！ヤングハッスルでーす！」。スキノの小ぢんまりとした焼鳥屋に大きな声が響き渡る。常連客から「待ってたぞ」と声が掛かる。カウンターの若い女性客も後ろを振り返って大きな拍手。毎週金曜日の夜になると、この店は笑いの渦に包まれる。美唄市出身。小さい頃から、人を笑わせることが好きで、小・中学校時代は、よくみんなの前で漫才をしたという。高校を卒業すると、親の反対を押し切って単身札幌へ。しかし、表舞台への道は遠く、バイトでためた資金も底をついた。「正直言ってなめてました。本気になって初めて見えてくる世界ってあるんですね」と話す。漫才のネタづくりも大変だが、話のテンポなど間の取り方が特に難しいという。居酒屋のお客から迷惑がられたり、ツバをお客にかけてしまったりという失敗も数多く経験した。

現在は、結婚披露宴会場や居酒屋などで漫才を披露しているが、月収は平均すると数千円程度。生計は深夜のバイトで支えている。日中は、漫才を練習する傍ら、FM放送局『さっぽろ村ラジオ』の放送サポーターとしても活動している。仲間四人で毎週出演しているお笑い番組も同放送局のもの。こうしたボランティア活動を通じて知り合った仲間の一人とコンビを結成し



今月の

人

横澤 章悟さん (20)

(菊水在住)

漫才コンビ『ヤングハッスル』を結成した

本気にならないと見えて来ない世界があるんですね。今はすごく気合いが入ってますよ。

たのが昨年の四月である。「客がウケると、気持ちに乗って、テンポも良くなる。これが見えない」と漫才の醍醐味を話す横澤さん。今年目標は、自分たちで実演活動企画すること、テレビ出演を果たすこと。「今はすごく気合いが入っているんですけど。とにかく仕事が欲しい。どこへでも出掛けます」と話すひたむきな表情からは、かつて道内で開催された漫才の投げ銭コンテストで優勝したことなど全く感じさせない。コンビでの彼の役割は「ツッコミ」だ。その切れ味鋭く高いトーンの声が、今年も大勢の客や視聴者を楽しませてくれるに違いない。

編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236